健康とくらし

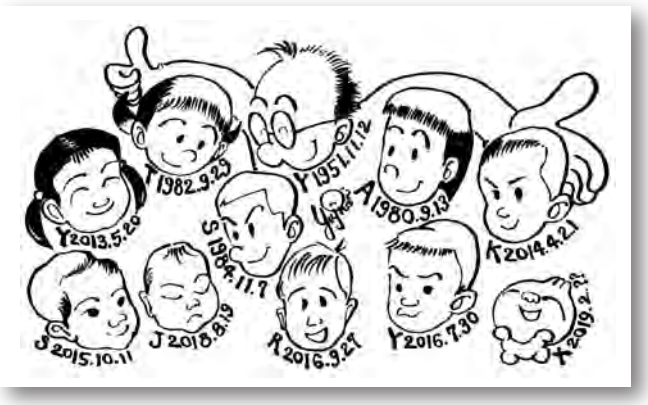
第266号　2019年1月

発行責任者：渡邉　優
岐阜健康友の会
岐阜市北山1丁目13番11号
事務局／電話・FAX（058）244－3522
E-mail　tomonokai@gifu-min.gr.jp

2018年10月末日現在
会員数10,584人
基金合計4億4452.7千円

謹賀新年

みんなでつくった50年
これからつくる新たな時代
さあ明日へつなげよう！



「岩井ファミリー」岩井画

新年のあいさつ

岐阜勤労者医療協会
理事長　岩井　雄司

今年の9月8日、岐阜民医連発祥診療所＝華陽診療所は50周年を迎えます。1969年に華陽民主診療所（無床／玉置 嘉輝所長）は誕生しました。

それから9年後の1978年5月8日、現在「ケアハウスささゆり」が建つところに、みどり診療所が開所。19床の有床診療所で外科の笹谷 唯美所長と川上 明男内科医師の二人医師体制でした。同年9月から玉置 嘉輝先生が2年間の専門研修に出られることを補うために卒後3年目／26歳の岩井が研修中の山梨から1年間だけみどり診療所で勤務しました。さらにその5年後の1983年4月に岩井が岐阜に帰任、同年12月12日にみどり診療所は53床のみどり病院となりました。1989年3月に現在の地に新「みどり病院」110床（笹谷唯美院長）、1998年7月こがねだ診療所（加藤 澄夫所長）、1999年3月すこやか診療所（横山 道江所長）が開設されました。

この間、患者様、利用者の皆様、地域の皆様、諸団体の皆様方、役職員の皆様方のお陰をもちまして、私たちは成長することができました。年頭にあたりあらためて感謝申し上げます。

班を基礎に、支部を単位に、元気・健康・まちづくり

岐阜健康友の会
会長　渡邉　優

新年明けましておめでとうございます。

今年は勤医協、華陽診療所50周年、半世紀の節目になります。

友の会会員が1万世帯を超えました。会員相互の元気・健康に、安心して住み続けられるまちづくりが広がっています。そして、居場所でのとりくみ、地域とのつながりと新たな展開が始まっています。

今号から「健康とくらし」の紙面を刷新、友の会「入会のしおり」も新しくなりました。会員のみなさんの要望を紙面に反映し、新しい会員のお誘いにつなげていければと、考えています。

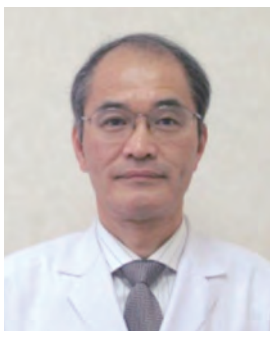
今年は班、支部の活動を強め、さらに新しい班、支部結成をめざします。そしてどの地域でも質量とも豊かなとりくみを推進していけるよう、班・支部活動の手引きを作成していく予定です。

昨年は、住宅型有料老人ホームすこやかを含む総合施設オープンと、わらべ保育所の新築移転と画期的な事業が続きました。

1969年の華陽民主診療所開設以来、健康友の会会員は、こうした新施設建設を基金募集で支えてきました。次は、昨年40周年を祝ったみどり病院のリニューアルをめざし、基金のとりくみを強めていきましょう。

新年のあいさつ

一般社団法人　ファルマネットぎふ
理事長　青山　栄司



新年、明けましておめでとうございます。この間、法人は、一般社団法人（非営利型）化をおこない、しいのみセンター薬局は健康サポート薬局に認定され、定期的な禁煙教室や地域の班会の講師として活動してきました。今後、さらなる地域の健康づくりの実践として、現在、「しいのみハウス」構想を検討しています。地域において、人と人との「繋がる力」は健康づくりには欠かせません。地域の健康づくりの拠点としてはもちろん、地域のたまり場や交流の場として、また学習支援活動やこども食堂の場としてなどの機能を持ったものを考えております。早ければ今年度中完成を目標としています。

地域の健康づくり、安心して暮らし続けられるまちづくりを健康友の会をはじめ近隣医療機関や地域の諸団体とともに奮闘したいと思います。

健康春秋

内戦下シリアで三年間も拘束されていたフリージャーナリストの安田純平氏が生還した。自己責任を問う人もいるが、私は三年間も拷問に近い監禁に耐えて、生きる意志を持ち続けたその勇気を讃えたい▲『やや黄色い熱をおびた旅人』（原田宗典著）を読み終えたところだった。黄色とは黄熱病の予防接種を受けたことを証明する用紙の色を示し、著者は例えばアフリカのエトルリアで、セルビアのベオグラードで、またカンボジアのプノンペンで、かつて大きな紛争地のあったそれらの地域の取材を目的に訪れている。何があったのか、その真実を知るための旅であった▲それらの紛争地では、私達日本での日常の生活からは想像することのできない苦悩と分断が人々の心に深い傷を残していた▲日本は平和憲法によってかろうじて守られているとしても、安倍政権がこの六年間、進めてきたのは「戦争できる国つくり」であり、憲法九条の放棄である▲この政治を変えなければならない。日本が戦争に巻き込まれないために何ができるのだろうか。すくなくとも歴史の真実から目をそむけず、関心をもつこと。例えば、難民の発生している紛争地域でなにが起きているか。そこにジャーナリストの報道の役割は大きい。（K）